

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「おはようございます」「こんばんは」の意味はわかりますよね。

では・・・・・・・・・・・・・・・・「こんにちは」の意味は？～

「おはようございます。」には、「お早いですね。朝ですね。」「こんばんは」には、「今晚は〇〇ですね。もう夜ですね。」という意味が込められているのは、みなさん知っていると思います。

では日中のあいさつの「こんにちは（今日はわ）」にはどんな意味がこめられているのでしょうか？
では・・・どうぞ。

フランスが、国を挙げて欲しかった日本のデザインがありました。是非、そのデザインを売ってほしいと、国家予算の数%という巨額の金額を提示したとか・・・そのデザインとは・・・

日本の国旗です。フランスが提示した額は何と500万円といわれています。これは明治初期の500万円ですから、現在では「兆」レベルの額だったと考えていいでしょう。

しかし、明治政府は財政難であるにもかかわらず、売りませんでした。

日本の国旗に由来は・・・幕末、日本の船に「ナショナル・フラッグ」をつける必要が生まれました。

この時、鹿児島（薩摩藩）の島津斉彬が、「日本の将来は古代から日本人がいのちの恩として愛してきた輝く太陽のようではなくてはならぬ。」と考え、太陽のマークである「日の丸」を日本のナショナル・フラッグ」にすることを徳川幕府に提案しました。日の丸は朝日だったわけです。

実は、「こんにちは」という言葉の語源「今日」も太陽を意味しています。

今でも、太陽のことを「今日様（こんにちさま）」とか「こんにちさん」と呼ぶ地方がありますが、昔は太陽のことを「今日様」と呼んでいました。

夏目漱石の小説『坊ちゃん』にも・・・「そんなことをしたら今日様へ申し訳ないがなもし。」というセリフが出てきます。

ということは・・・「こんにちは、お元気ですか」というあいさつは、「太陽とともに、太陽のエネルギーをいただきながら、明るく生きていらっしやいますか。」という意味になります。

そして、「さようなら、ご機嫌よう。」は・・・「さようならば(そうであるならば=太陽とともに生活されておられるならば)、ご気分もよろしいでしょう。」という意味になります。

国の顔である国旗に朝日を選んだ日本。あいさつにも太陽を選んだ。

古来から日本では太陽をリスペクトし、朝日を拝んできました。「朝廷」という言葉。なぜ「朝」という字が使われているかというと、古代の政（まつりごと）は日の出とともに行われていたからです。

ちなみに、朝日を浴びると、心を穏やかにする脳内の幸福ホルモンとよばれるセロトニンの分泌を促すことも分かっています。

明日から早速、朝早く起きて「**やあ、太陽さん!**」とあいさつして、朝日を浴びてみてはいかがでしょうか？

「ニッポンのココロの教科書」ひすい ことろう・ひたか みひろ（大和書房）

たしかに、外国では新年のカウントダウンが大きなイベントですが、日本では元旦に、わざわざ遠くまで行ったり、山に登ったりして「初日の出」を拝みに行ったり、テレビでは「初日の出」を放送しようと各局がヘリコプターまで飛ばして、生中継する国ってめずらしいのかもしれないね。

よし、朝、太陽を浴びて、一日をスタートさせていこう!!

